

段ボールコンポストを利用して 生ごみから堆肥をつくろう！

家庭から出るごみの約1割が生ごみです。
ごみの減量に是非チャレンジしてみてください。

段ボールコンポストとは…

段ボール箱を利用した生ごみ処理容器です。段ボール箱に基材を入れ、微生物の力によって生ごみを分解し、堆肥を作るものです。

① 準備しよう

用意するもの

□段ボール箱／1個

- ・みかん箱程度の大きさ。
- ・厚手で強度のあるもの（二重構造）。
- ・防水加工のないもの

□二重底用の段ボール板／1個

- ・強度を上げるために二重底にします。

□基材（ココピート／15リットル もみ殻くん炭／10リットル）

- ・ココピートとは、ココナッツの殻を発酵させた天然資源です。
- ・もみ殻くん炭とは、もみ殻（精米のときにとれる米の外側についた皮）を
- ・400℃以下の低温でいぶし、炭火させたものです。

□風通しのよい網目状の台

- ・通気性を良くするために使います。

□虫よけキャップ

- ・いらなくなったTシャツを袖と首の部分を縫い合わせて作ります。

□スコップ

段ボールコンポストの作り方

手順① 段ボールを組み立てよう

- ・段ボールを箱状に組み立てます。
- ・底が抜けるのを避けるために二重底にして底を強化します。

<ポイント>

- ・ガムテープはクラフトを使いましょう。
- ・最小限のガムテープで固定しよう。
- ・虫の侵入を防ぐため、隙間や穴をガムテープで目張りしましょう。

手順② 風通しの良い網目状の台に段ボールを置こう

- ・直接地面に置くと、底が湿って段ボールが壊れやすくなります。
- ・通気性を良くするために土台を用意してください。

手順③ 基材を投入しよう

- ・あらかじめ混ぜた基材（ココピート、もみ殻くん炭）を段ボールの6割くらいまで入れます。

② 段ボールコンポストを利用しよう

- ・生ごみを投入してみましよう。
- ・1日500グラムから800グラムを目安として投入してください。
- ・（生ごみの量は少なくてもかまいません）

生ごみ投入の手順

1. 前日に入れた生ごみ部分のみよくかき混ぜる。
2. 中心部に穴を掘って、生ごみを入れる。
3. 上から基材をかぶせておく。
4. 虫よけキャップをかぶせる。

生ごみ投入のポイント

投入物について

なるべく細かくしてから入れると分解が早くなります。
生ごみの水切りはしなくても大丈夫です。
貝殻は分解しないので投入しないでください。
玉ねぎ、トウモロコシ、タケノコの皮等の乾燥したものは分解されるまでに時間がかかります。
廃油、魚のあら、炭水化物は微生物の分解促進になります。

置き場所について

雨にあたらない場所に置く。
風通しの良い場所に置く。
可能であれば日当たりが良い場所が望ましい。

温度管理について

微生物が順調に分解していると、段ボールの中身が 20℃から 40℃程度まで上がります。
寒い季節は微生物の働きを助けるため、日なたなど暖かい場所に置き、廃油や米ぬかなどカロリーの高いものを時々入れるなど工夫が必要です。

虫対策について

台所の生ごみも密封保管して、虫に卵を産ませないようにしましょう。
段ボールコンポストにきちんとガムテープで目張りし、虫よけキャップをかぶせて虫に卵を産ませないようにしましょう。

においが気になる場合について

通気性のよくない状態の場合があります。スコップを縦に差し込み、しっかり空気を送り込みましょう。

③熟成させましょう

投入期間3ヶ月から6ヶ月程度経過し、基材がべたつき、分解するまでに時間がかかると感じた時が熟成を行う時期です。

熟成の必要性

段ボールコンポストへの生ごみ投入を終了した時点では、堆肥ではありません。
未熟な堆肥を土の中に入れると、土の中で熟成がはじまり、植物の根を傷めることがあります。

熟成の手順

1週間に1回程度1リットルから2リットルの水分を加え、基材全体をよく混ぜて分解を促進します。
熟成期間は、夏期で2週間から1ヶ月、冬季で1ヶ月から2ヶ月程度で、生ごみの形がなくなり、水分を加えても温度の上昇がなければ熟成完了となります。

④堆肥の完成

お疲れ様でした。堆肥の完成です。
自宅で野菜や花を育ててみましょう。